

「死生学の諸問題」

参加自由

担当:清水哲郎、山崎浩司(東京大学大学院人文社会系研究科上廣死生学講座)

曜日・時限:木・5-6(午後4時50分~)

場所:215教室(東京大学本郷キャンパス法文1号館)

概要:死生学の諸問題に関して、参加者の自発的な研究発表とそれに基づく討議を行う。参加者は各自関心を持つテーマを選んで、発表を目指して調査・研究を進めることができ。テーマとしては、臨床死生学および臨床倫理学の諸問題が中心となると予想されるが、これに限定されることはなく、参加者の自由な発想を期待する。通年で計10回開催予定。開催日は、同じく木・5-6時限目に行われる応用倫理研究3「『生命と価値』論のフロンティア」と重ならないよう調整する。後で本演習・研究会の参加者には、応用倫理研究3にも参加することをお奨めする。具体的授業計画(発表者、テーマ、日時等)は、上廣死生学講座ホームページ(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/index-j.html>)や山崎の個人ホームページに掲載する(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~yamazaki/index.html>)。

予定:

04月15日 第1回 宮崎貴久子 緩和ケアへの移行と実践の円滑化にむけた研究とその背景
——がん診療ガイドラインとQOL評価の課題

(04月22日 応用倫理研究3 一ノ瀬正樹 動物の生命について考える)

(05月20日 応用倫理研究3 小島寛之 相互推論と経済行動)

05月27日 第2回 梶原景月 Pet Lovers Meeting 10年間の活動報告

——日本で初めてのペットロス自助グループ

06月10日 第3回 林千章 リプロダクティブ・フリーダム再考——中絶の自己決定権をめぐって

(06月17日 応用倫理研究3 瀧川裕英 生命の終わりをめぐる倫理と法)

06月24日 第4回 日笠晴香 事前指示の有効性と最善の利益

(07月08日 応用倫理研究3 林良博 動物福祉をめぐる科学と倫理)

07月29日 第5回 藤本啓子 ホスピス電話相談から見える癌患者の現状

(10月07日 応用倫理研究3 石浦章一 薬物とアルツハイマー)

09月16日 第6回 阪口英夫 口腔ケアと死生学——終末期患者の口腔ケアと

死生学の意外な関係

10月14日 第7回 孫和代・花崎皋平・閔正勝 「ハンセン病胎児標本問題」からの考察

——生と死の令差から

11月04日 第8回 高橋麻由 「脳死者からの臓器移植」をテーマにした授業実践

(12月09日 応用倫理研究3 中川恵一 がんのひみつ)

12月16日 第9回 打出喜義 医療事故死遺族へのグリーフケア——

医療者は「遺族」のグリーフワークをサポートできるのか

(01月13日 応用倫理研究3 島薦進 現代の生命科学は倫理的指向づけをもちうるのか?)

01月20日 第10回 澤井努 石門心学における死生親——石田梅岩の思想を手がかりとして

02月03日 第11回 永田明 生体肝移植ドナーへのインフォームド・コンセントの在り方

についての考察

昨年度の発表:「HIV感染リスクと生きづらさ—MSM(Men who have Sex with Men)調査から見えてくるもの」(山崎浩司)、「適切な治療」と「よい治療」との関係をめぐって—医学的適応概念の考察を通じて(圓増文)、「在宅ターミナルケアとその基盤としての死親・死の過程親」(向後裕美子)、「北米先住民族(スーク族)の死生親とその現代的意味」(賀陽濟)、「死生を語る」(Gordon Planes (Chief) & Shirley Alphonse (Healer))、「意識障害患者における痛み刺激実験の現状と展望」(戸田聰一郎)、「治療内決定の場面に倫理的応用を試みた臨床看護部からの一報告」(白神妙子)、「出生前診断をめぐる日本の女性運動と障害者運動の“対立”を解きほぐすために」(林千章)、「家族の自死を悼む心—自死遺族の語りから」(橋本望)、「生きる意味と死の関係—死をめぐる問題への分析的アプローチ」(吉沢文武)、「青年期前期を対象としたデスエデュケーションプログラムの開発研究—スクールカウンセリング、学生相談による死生親の育成援助を目指して」(海老根理絵)